本件は京都市交通局から京都市政記者室宛にもご案内しています。

NEWS RELEASE

立命館大学

2022. 9. 7 ＜計4枚＞

京都大学記者クラブ加盟社　各位

立命館大学広報課

京都市交通局×映像学部 社会連携プログラム
「１１０周年に感謝をこめて、これからも。」ＰＲ映像が完成
９月１２日（月）から四条駅および京都駅のデジタルサイネージに掲出

立命館大学映像学部の学生は京都市交通局との連携を通じて PR 映像 5 作品を制作し、その作品が 9 月 12 日(月)から順次、地下鉄烏丸線四条駅北改札口および京都駅コトチカ広場のデジタルサイネージに掲出されることとなりましたので、お知らせします。

映像学部は、企業や学外機関と連携して、具体的な目標や目的の達成を目指すコンテンツの共同開発、共同研究を行う実践型科目「社会連携プログラム」を設置しています。京都市交通局との連携プログラムは、2017 年 4 月に開始し、今年で 6 年目になります。同プログラムでは、学生たちが 15 回の授業を通じて、市バス・地下鉄の PR 映像の制作に関する企画立案から映像制作、社会発信まで一貫して取り組みます。

京都市の公営交通は、明治 45 年 6 月 11 日の市電の運行開始以来、本年で 110 周年を迎えることから、今年度の 110 周年記念のキャッチフレーズである「110 周年に感謝をこめて、これからも。」を今年度の映像作品のテーマとして、各作品 30 秒間で公営交通の歴史や、利用者の方々への感謝の気持ちなどを表現しました。伏見稲荷大社の過去と現在の変化を示して、110 年という歴史の長さを表現した作品や、デジタルサイネージの前を歩いている通行人と映像内のキャストがほぼ等身大になるよう工夫し「ともに歩む」を表現した映像作品などもあります。

学生たちの学びの成果でもある、創意工夫が込められた各作品に、ぜひご注目ください。

記

放映開始日 ： 2022 年 9 月 12 日(月)以降順次
放 映 場 所 ： (1)地下鉄烏丸線四条駅および京都駅のデジタルサイネージ ※
※四条駅は北改札口、京都駅はコトチカ広場(中央1改札口の北側)に設置しています。
(2)京都市交通局公式「YouTube」
URL: https://www.youtube.com/channel/UCWWJc2s88DRmg25lyK8JyHw
映 像 内 容 ： 別紙参照
制作メンバー ： 映像学部開講科目「社会連携プログラム」受講生 6 人

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学映像学部事務室　担当:谷口　　TEL. 075-465-1990

別紙

1．　PR 映像について

映像内容　（各動画 30 秒）

(1)中嶋　翔太さん(4 回生)・藤森　俊哉さん(4 回生)の作品(共作)

★制作者コメント

- 京都市の公営交通 110 年の歴史を年表で表現。過去から現在にかけてのつながりを意識して制作
- 映像の最後に出てくる「110 周年」のロゴは、少しでも動画を見てもらえるようにシンプルかつ動きを持たせた作りにしている。

(2)氏家　萌々菜さん(3 回生)の作品

★制作者コメント

- 「ともに歩む」をコンセプトに、デジタルサイネージの前を歩いている通行人と映像内のキャストがほぼ等身大になるように制作
- これからもお客様に寄り添っていくという交通局の未来への決意を表現するため、親しみやすい印象を与えるような演技で注目を集めるよう工夫した。

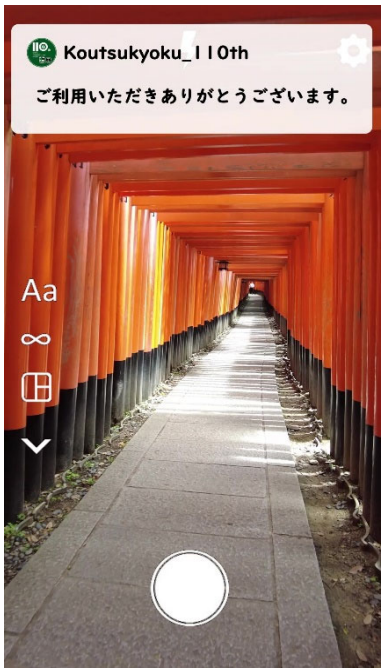
(3)大賀　柊也さん(3 回生)の作品

★制作者コメント
- 前半は、公営交通 110 年の歴史の長さをうどんの麺で比ゆ的に表現することで、見た人に興味・共感を持ってもらえるよう表現
- 後半は、子どものお客様と市バス運転士が触れ合う様子を映し出すことにより、感謝の気持ちが伝わるよう制作

(4)渡辺　尊さん(3 回生)の作品

★制作者コメント
- 110 周年の記念ロゴを人の足と市バスのタイヤで表現
- 市バスが昭和・平成・令和と、長い間人々の生活を支えてきたことをアニメーションで表現
- デジタルサイネージでの効果的な表現方法として、シンプルなロゴアニメーションを制作

(5)野田　郁弥さん(2 回生)の作品



★制作者コメント
- 伏見稲荷大社の過去と現在の変化を示すことで 110 年という歴史の長さを表現
- ＳＮＳをモチーフに、「足を運ばないで見られる画像」から「足を運ばないと撮れない動画」に画面を移すことで、市バス・地下鉄を利用して京都の歴史的な建造物を訪れてほしいという思いを表現

2.　立命館大学映像学部について

アート、ビジネス、テクノロジーを総合するアプローチで映像分野における「プロデュース」能力を育成し、社会の活性化と生活の質の向上につながる映像文化を創造する人材の育成をめざす目的のもと、日本で初めて映像に軸をおいた総合大学芸術系学部として、2007 年、衣笠キャンパスに開設。映像学部・映像研究科の新展開として、2024 年 4 月に大阪いばらきキャンパス(OIC)へ移転します。

3.　社会連携プログラムについて

映像学部は、開設以来、実際のコンテンツ開発の現場を授業の中で体験し、実践的な知識と技術を習得するため、企業や学外機関と連携し、具体的な目標、目的をもったコンテンツの共同開発、共同研究を実施する科目「社会連携プログラム」(2022 年度は 10 クラス開講、80 人が受講)を設置しています。

若い感性による斬新な PR 動画の制作と、広告制作過程の体験による学生の実践的な学びを通した人材育成を目的としています。